



様式第4号（第6条関係）

平成28年11月22日

富士見市議会議長 津波信子 様

会 派 名 公明党
代 表 篠田 剛

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 平成28年11月10日～28年11月11日（1泊2日）
- 2 参加者名 津波信子 篠田剛 加藤清 深瀬優子
- 3 場所（行政視察地・研修場所）1日目＝新潟市役所、2日目＝富山市役所
- 4 調査・研修概要 1日目＝新潟市「民生委員協力員制度について」
2日目＝富山市「富山型デイサービスについて」
富山市「小中一貫的連携教育について」
- 5 感想及びまとめ

【新潟市「民生委員協力員制度について」】

来年で100周年となる民生委員・児童委員の制度だが、担い手不足や訪問活動の増加などの諸問題を解決へと導くための1つの方法として、民生委員を補佐する、民生委員協力員の導入を推進している。制度化までの経緯や現在の取り組みなどを視察させていただき、大変参考になった。

富士見市とは人口規模や面積などは違うものの、民生委員や自治会が抱える様々な課題は共通しており、本市の課題解決のためにも、導入を検討していくべき制度であると実感した。

【富山市「富山型デイサービスについて」】

平成5年、富山赤十字病院を退職した3人の看護師が開所した、デイケアハウス「このゆびと一まれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで障害のあるなしにかかわらず受け入れたことから始まり「富山型」といわれるようになった。

特徴としてのキーワードは、小規模・多機能型・地域密着型。

(小規模) 一般住宅をベースとして、利用定員が15人程度で家庭的な雰囲気が保たれている。

(多機能) 高齢者・障害者(児)・乳幼児など利用者を限定せず、誰でも受け入れ対応する。

(地域密着) 身近な住宅地の中に立地、地域との交流が多い。

この「富山型デイサービス」は、従来の行政にない民間の柔軟な発想に基づき誕生したサービス形態で、行政がバックアップするという形で発展拡大。平成24年、富山型デイサービスの形態が東日本大震災の被災地において「共生型福祉施設」として国から奨励され、その普及促進が許可されている。運営面の助成は行政からではなくサービス提供に係る報酬で運営されており、今後の課題として、障害福祉報酬の改善が望まれており、基準該当事業所の障害福祉サービス報酬が指定事業所よりも算定が低く、平成27年4月から基準該当事業所は、送迎加算の算定が出来なくなった。

これからの富士見市を考えると、この先駆的な取り組みの実態に触れ、制度の不十分はこれからの課題であるが、地域密着型が大切であり、小規模の重要性を改めて考えさせられ、大いに参考になった。

【富山市「小中一貫的連携教育について」】

芝園小・中学校は一体型校舎で『小中一貫的連携教育』を行っている。

小中一貫的連携教育で授業参観、合同研修、中学校教員の出張授業等を行っていることにより教職員が互いの指導観や指導法を共有することで、指導力の向上を図り情報交換や交流を密に行い、児童生徒の成長に応じ効果的な対応ができるようになった。

また、児童生徒の作品や活動を互いに見合うことができ、よい刺激を受けている。

富士見市の教育行政を推進していく上で、大変参考になる取り組みだった。